

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4401467号
(P4401467)

(45) 発行日 平成22年1月20日 (2010. 1. 20)

(24) 登録日 平成21年11月6日 (2009. 11. 6)

(51) Int. Cl.

F 1

B 6 5 D 47/08 (2006. 01)

B 6 5 D 47/08

F

B 6 5 D 41/32 (2006. 01)

B 6 5 D 41/32

Z

B 6 5 D 47/12 (2006. 01)

B 6 5 D 47/12

請求項の数 1 (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平11-55191

(22) 出願日 平成11年3月3日 (1999. 3. 3)

(65) 公開番号 特開2000-255615 (P2000-255615A)

(43) 公開日 平成12年9月19日 (2000. 9. 19)

審査請求日 平成18年1月18日 (2006. 1. 18)

(73) 特許権者 000216195

天龍化学工業株式会社

奈良県磯城郡三宅町大字伴堂 5 5 1 番地

(74) 代理人 100079131

弁理士 石井 暁夫

(74) 代理人 100096747

弁理士 東野 正

(74) 代理人 100099966

弁理士 西 博幸

(72) 発明者 吉田 仁昭

奈良県磯城郡三宅町大字伴堂 5 5 1 番地

天龍化学工業株式会社 内

審査官 倉田 和博

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 合成樹脂製キャップ

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

容器の口部の外側から嵌まる外嵌合部を有するとともに注出口が設けられた嵌合部と、前記嵌合部の上端にヒンジを介して一体的に設けられた開閉自在な蓋とから成り、前記嵌合部を容器の口部に打栓によって強制嵌合することにより、容器に取り付けたままで使用されるようになっており、且つ、前記嵌合部には、当該嵌合部を容器の口部から強引に引き離すための指掛け部が一体に設けられているキャップであって、

前記指掛け部は、前記ヒンジの下方を除いて嵌合部を囲うようにリング状に形成されており、前記指掛け部の両端を嵌合部に一体に連結している、

合成樹脂製キャップ。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、打栓によって容器の口部に嵌着させるようにした合成樹脂製のキャップに関するものである。

【0002】

【従来の技術】

打栓によって容器の口部に強制嵌合させるタイプのキャップは、バーজন性を確実に保証できるという利点や、注出口の形状を自由に設定できる等の利点がある一方で、容器から分離することが困難であるため、使用後において容器をリサイクルしたり廃棄処理した

りするに際して、キャップと容器とを分別し難いという問題があった（特にガラス瓶の場合、リサイクルのためには必ずキャップを取り外さなければならないため、分別の問題が顕著になる。）。

【 0 0 0 3 】

そこで、本願出願人は、特開平 7 - 61454号において、キャップのうち容器の口部に嵌着する嵌合部に、当該嵌合部を引き裂くための薄肉状の弱化部と撮み片とを設けることを提案した。

【 0 0 0 4 】

【発明が解決しようとする課題】

前記公報の構成によると、撮み片を指先で摘んでキャップの嵌合部を弱化部に沿って引き裂くことにより、使用後にキャップを容器から簡単に取り外すことができる。しかし、この先行技術のようにキャップに弱化部を設けると、それだけ容器の口部に対する嵌合強度が低くなると共に、打栓工程で弱化部が破断してしまう虞があるという問題があった。

【 0 0 0 5 】

本発明は、容器の口部への嵌合強度を低下させることなく、キャップを容器から簡単に取り外しできるようにすることを目的とするものである。

【 0 0 0 6 】

【課題を解決するための手段】

本発明は、容器の口部の外側から嵌まる外嵌合部を有するとともに注出口が設けられた嵌合部と、前記嵌合部の上端にヒンジを介して一体的に設けられた開閉自在な蓋とから成り、前記嵌合部を容器の口部に打栓によって強制嵌合することにより、容器に取り付けたままで使用されるようになっており、且つ、前記嵌合部には、当該嵌合部を容器の口部から強引に引き離すための指掛け部が一体に設けられているキャップにおいて、前記指掛け部は、前記ヒンジの下方を除いて嵌合部を囲うようにリング状に形成されており、前記指掛け部の両端を嵌合部に一体に連結している。

【 0 0 0 7 】

【 0 0 0 8 】

【作用・効果】

本発明においては、リング状の指掛け部に指を掛けて強く引っ張ることにより、キャップを容器の口部から引き離すもので、使用後に簡単に容器口部から簡単に取り外すことができる。

【 0 0 0 9 】

【発明の実施形態】

次に、本発明の実施形態を図面に基づいて説明する。

【 0 0 1 0 】

図 1 のうち、(A)は縦断面図、(B)は一部破断平面図である。本実施形態で使用する容器 1 は合成樹脂製である。

【 0 0 1 1 】

キャップ 5 は、容器 1 の口部 2 に外側から嵌まる外嵌合部 6 と、容器 1 の口部 2 に内側から嵌合する内嵌合部 7 と、両嵌合部 6,7 の上端に連設した注出口 8 とを備えており、注出口 8 は底板 9 で塞がれている。底板 9 には、閉ループ状のスコアー（薄肉部）10 が形成されており、スコアー 10 で囲われた部分の端部に開封用のプルタブ 11 を一体に設けている。なお、底板 9 は必ずしも必要はなく、例えばアルミ箔等のシール片を注出口 8 に溶着するなどして封止しても良い。

【 0 0 1 2 】

キャップ 5 の両嵌合部 6,7 には、係合部の一例として環状突起 12 が形成されている一方、容器 1 の口部 2 の内外両面には、前記係合部 12 が嵌合する係止部の一例として環状溝 13 が形成されており、キャップ 5 を、図示しないポンチで打栓し、キャップ 5 の両嵌合部 6,7 をその弾性に抗しての変形によって容器 1 の口部 2 に強制的に嵌合させることにより、容器 1 の密封が行われる。

【 0 0 1 3 】

そして、キャップ 5 における外嵌合部 6 の外側に、リング状の指掛け部 14 を配置している。このリング状の指掛け部 14 の両端は、引き千切り可能な連結部 15 を介して外嵌合部 6 に一体に接続されており、更に、円周方向に沿った複数箇所が、引き千切り可能なブリッジ部 16 を介して外嵌合部 6 に繋がれている。図面では示していないが、指掛け部 14 のうち連結部 15 と反対側の部位に、指掛け部 14 を起こすための指掛け片を設けても良い。

【 0 0 1 4 】

内容物を消費し切って廃棄した後は、指掛け部 14 を起こしてブリッジ部 16 を引き千切ってから、指掛け部 14 に指を掛けて強く引っ張ることにより、内外嵌合部 6, 7 と容器 1 の口部 2 との嵌合を解除して、キャップ 5 を容器 1 から簡単に取り外すことができる。この場合、指掛け部 14 が大径であることにより、当該指掛け部 14 に数本の指を掛けて強く引っ張ることができるため、キャップ 5 を簡単に取り外すことができる。

10

【 0 0 1 5 】

実施形態のようにブリッジ部 16 を介して指掛け部 14 がキャップ 5 に連設されている、ブリッジ部 16 の引き千切りの有無によって流通段階での不正行為の有無を確認できる利点がある。なお、キャップ 5 を取り外すに当たっては、例えば柱のような適当な固定部材に上向きの鉤を設けて、この鉤に指掛け部 14 を引っ掛けて、両手又は片手で容器 1 を掴んで下方に引き下ろしても良い。

【 0 0 1 6 】

さらに、外嵌合部 6 の上端に、三点支持式のヒンジ 17 を介して開閉自在な蓋 18 を一体に設けている。底板 9 のスコアー 10 は平面視円形に形成している。さて、このタイプのキャップ 5 は、蓋 18 を 180 度開いた状態で成形されるものであり、成形した後の型抜きの特容易性の点から、外嵌合部 6 の外面のうちヒンジ 17 の下方の部位には突起を設けることができない。

20

【 0 0 1 7 】

そこで、分図 (B) に示すように、指掛け部 14 は、ヒンジ 17 の下方を除いて外嵌合部 6 を囲うように配置されており、指掛け部 14 の両端が連結部 15 を介して外嵌合部 6 に一体に連結されている。

【 0 0 1 8 】

【 0 0 1 9 】

30

【 0 0 2 0 】

【 0 0 2 1 】

その他

以上、本発明の実施形態を説明したが、本発明は更に種々の態様に具体化できる。

【 0 0 2 2 】

例えば、キャップの取り外しに際してキャップの外嵌合部が破断しても良いのであり、嵌合部の上下寸法が直径に比べて大きい場合、嵌合部の下端部に、破断のきっかけとなる切欠きや薄肉部などを形成しておいても良い（これらの切欠きや薄肉部等は、打栓時に張力が全く又は殆どかからない状態で形成しておくのが望ましい。）。

40

【 0 0 2 3 】

【図面の簡単な説明】

【図 1】本願発明に係る実施形態を示す図で、(A) は断面図、(B) は一部破断平面図である。

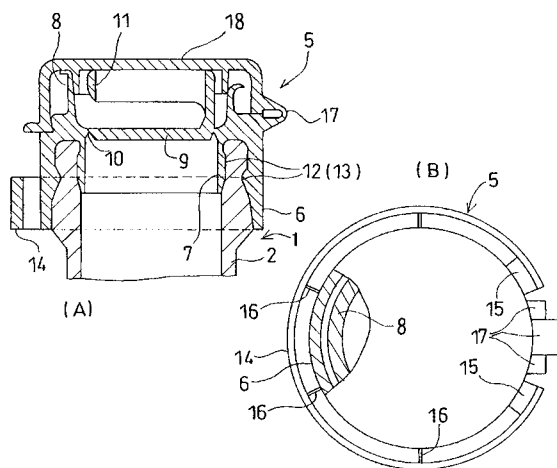
【符号の説明】

- 2 容器の口部
- 5 キャップ
- 6 外嵌合部
- 7 内嵌合部
- 14 指掛け部
- 15 連結部

50

16 ブリッジ部

【図 1】



フロントページの続き

(56)参考文献 実開昭62-008943(JP,U)
特開平10-035711(JP,A)

(58)調査した分野(Int.Cl.,DB名)

B65D 47/08-47/12

B65D 41/32